

## 会 議 録

会 議 の 名 称	平成30年度第1回行財政改革推進委員会
開 催 日 時	平成31年3月8日（金）13時30分から15時10分まで
開 催 場 所	吉川市役所 303会議室
出 席 委 員 氏 名	石阪督規委員長、小助川美穂副委員長、菊地純松委員
欠 席 委 員 氏 名	なし
担 当 課 職 員 職 氏 名	政策室副室長兼主幹 荒川泰弘、政策室企画担当副主幹 島村善和 政策室企画担当主事 小林洵
会 議 次 第 及 び 会 議 の 公 開 又 は 非 公 開 の 別	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 委員委嘱</li> <li>3 委員・職員紹介</li> <li>4 議事 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 委員長、副委員長の選任 <ol style="list-style-type: none"> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span> 行財政改革推進委員会名簿</li> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span> 行財政改革推進委員会設置要綱</li> </ol> </li> <li>(2) 行財政改革推進委員会の進め方</li> <li>(3) 平成29年度の取組状況 <ol style="list-style-type: none"> <li><span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span> 行財政改革進行管理シート</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5 その他</li> <li>6 閉会</li> </ol> <p style="margin-left: 40px;">すべて公開</p>
非 公 開 の 理 由	なし
傍 聴 者 の 数	0名
会 議 資 料 の 名 称	次第、資料1～3
会 議 録 の 作 成 方 法	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会 議 録 確 認 指 定 者	石阪委員長、小助川副委員長
そ の 他 の 必 要 事 項	なし

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、決定事項等）	
1 開 会 事務局	<p>————— 《開 会》 —————</p> <p>ただ今より、平成30年度第1回行財政改革推進委員会を開会する。</p>
政策室長	<p>————— 《委 嘱》 —————</p> <p>政策室長より委員3名に対して委嘱状の交付。</p>
事務局	<p>————— 《政策室長挨拶》 —————</p> <p>多忙な中でお集まりいただき、また、この度は行財政改革推進委員を快くお引き受けいただき、改めて感謝申し上げます。地方公共団体においても持続可能な取組みが求められており、行財政改革の取り組みはこれに対し、大いに寄与するものであると認識している。また、現行の第4次行財政改革大綱については、平成31年度で計画期間の終了を迎えることから、委員の皆様は任期中に新たな計画の策定についてもお力添えをいただくようお願いする。</p>
事務局	<p>————— 《委員紹介》 —————</p> <p>委員会委員3名の紹介。学識経験者から、埼玉大学教授の石阪委員。次に、市民公募からの菊地委員、同じく小助川委員。</p>
	<p>————— 《職員紹介》 —————</p> <p>事務局3名の紹介。政策室副室長の荒川、政策室企画担当副主幹の島村、政策室企画担当主事の小林。</p>
2 議 事 事務局	<p>————— 《定足数確認(会議の成立)》 —————</p> <p>本日の出席状況は、出席委員3名であり、行財政改革推進委員会設置要綱第6条第2項の規定による定足数である過半数に達しているため、本日の委員会が成立していることを確認した。</p> <p>議事の(1)「委員長、副委員長の選出について」に移る前に、委員長が決定していないため、議事の進行は事務局が暫定的に行う。</p>
事務局	<p>————— 《会議の公開・非公開の決定》 —————</p> <p>本日の会議は全て公開で行う。また、会議録の公開についても、会議録内の発言委員名を全て公開で行う。</p>
事務局	<p>————— 《議事審議》 —————</p> <p><b>(1) 委員長、副委員長の選出について</b> 石阪委員が委員長。小助川委員が副委員長で選出。</p>

石阪委員長	<p style="text-align: center;">————— 《署名委員の指名》 —————</p> <p>本日の会議録の署名委員に、石阪委員長と小助川副委員長の二人を指名。</p>
石阪委員長	<p style="text-align: center;">————— 《議事審議》 —————</p> <p><b>(2) 行財政改革推進委員会の進め方について</b>  それでは、議事について事務局より説明をいただく。</p> <p style="text-align: center;">—事務局説明（省略）—</p>
石阪委員長	<p>この推進委員会は、事務局から提示された進行管理シートで行財政改革の推進状況を確認し、各改革項目について意見等を述べるものとの認識でよろしいか。</p>
事務局	<p>その通りである。</p>
石阪委員長	<p>前任の委員会は、進行管理シートを事前に確認し、疑問点を事務局に寄せていたとのことであるが、同様のやり方で行うことでよいか。  また、評価の期間については、前任では、年度を半期ごとに管理していた。しかし、事業によっては、年度の後半のみで実施するものなどもあることから、年度を通して進捗管理を行うことでよいか。</p>
事務局	<p>前年度の取組み事項について、当該年度の6月ごろから進行管理シートの作成に取り掛かり、8月から10月にかけて委員会を開催し、必要に応じて次年度の予算への反映を行うような流れをイメージしている。</p>
小助川副委員長	<p>半期で評価ができない項目もあることから、年間を通じて評価をした方が全体を把握した上で評価ができるように思われる。</p>
石阪委員長	<p>進捗管理について推進委員会を年2回程度開催するとのことだが、その評価内容については、大綱の3つの柱立てを2回に分けて評価するのではどうか。具体的には、「Ⅰ 行政運営」と「Ⅲ 財政運営」を第1回に、「Ⅱ 市民サービス」を第2回に評価してはいかがか。</p>
菊地委員	<p>改革項目数から見てもそのように分けて評価するのが適当であると思われる。</p>
石阪委員長	<p>推進委員会の進め方については、事前質問に対し、事務局が回答をし、その中で進捗状況が芳しくないものや、委員が気になったものを取り上</p>

菊地委員	<p>げて議論していく、または提言をしていくという形式でよろしいか。</p> <p>すべての項目を1つ1つ議論していくことは難しいと思われるので、そのように進めるのが適当である。</p>
石阪委員長	<p style="text-align: center;">————— 《議事審議》 —————</p> <p>平成29年度の取組状況について</p> <p>それでは、議事について、資料1及び2に基づき、事務局より説明いただき、確認していく。</p> <p style="text-align: center;">—事務局説明（省略）—</p>
石阪委員長	<p>●III-2-③「窓口業務の外部委託の導入」</p> <p>窓口業務の外部化については、規模の大きい自治体ではコストメリットが生まれる。自治体の規模や、現状の体制によってはコストメリットが出ないこともある。また、外部化する際には、窓口業務で個人情報を取り扱うことから、その部分についても注意が必要となる。</p>
菊地委員	<p>個人情報を取り扱う業務であるので、外部化となった場合、思慮深く検討を進めてほしい。</p>
小助川副委員長	<p>具体的に窓口業務とはどのようなものを指すのか。</p>
事務局	<p>日本公共サービス研究会において、検討をした部分は、市民課と国保年金課の業務がメインである。当市の場合においては、現状で臨時職員等での対応をしているため、コストメリットが出づらくなっている。</p>
小助川副委員長	<p>外部化によって職員数を減らすということはふさわしくないと思っている。現状でも職員が少ない状況であり、有事の際に職員が足りなくなることが危惧される。</p>
事務局	<p>外部化により浮いた職員数を削減するのではなく、他の業務に振り分けるという考えもある。</p>
小助川副委員長	<p>市の主幹業務に携わる職員が増えるということは市にとって良いことであると思われる。</p>
事務局	<p>今回の調査結果からは、外部化した際に、現状のコストとほぼ同額の費用が掛かるとの結果が出たため、行き詰っている状況である。</p>

事務局	職員数を増やす事が難しい状況である。そういった中、A I などの新しい技術を活用するなど、効率化に努めていきたい。
石阪委員長	<p>●<u>Ⅲ－１－②「ネーミングライツの導入」</u></p> <p>ネーミングライツの導入についてはどのような状況であるのか。</p>
事務局	新たな施設を整備した際にあわせてネーミングライツを導入する事例はあるが、既存の施設等においてネーミングライツを導入した事例の情報を得ることが難しかった。
小助川副委員長	<p>●<u>Ⅲ－１－①「ふるさと納税制度を活用した寄附金の拡大」</u></p> <p>ふるさと納税事務を推進していくうえで、拡大していくことで経費が増加し、実質赤字になってしまうことがありうるのではないか。</p>
事務局	現状の体制では、寄附金額よりも多くの経費が掛かっているということはない。
石阪委員長	<p>●<u>Ⅱ－２－④「シティプロモーションの推進」</u></p> <p>平成29年度の上期、下期を通じて、目標達成度が低いようだが、どのような理由であるのか。</p>
事務局	年間目標をアクションプランの策定を掲げたが、現状として策定に至っていない状況である。
事務局	シティプロモーションに関連する事業は各課において行っているが、吉川市全体のシティプロモーションとして発信ができていない。
小助川副委員長	シティプロモーションについては、事業に掛けた経費に対してその効果があったかが不明である。短期的には効果が見られないかとは思いますが、費用対効果を重視すべきである。
石阪委員長	効果を見るためには、経済効果と定住人口の増加である。その部分で効果が見られるとわかりやすい。その他にもホームページやSNSのアクセス数などからもわかることがある。
事務局	シティプロモーションの最終目的は定住人口の獲得であると認識しており、その目的を達成するために様々な取り組みを行っている。市への愛着心を向上させるものであったり、市外の方に吉川市を知ってもら

	<p>うものであったり様々であるが、それらは、すべて定住人口の増加を目的としたものである。</p>
<p>事務局</p>	<p>定住人口の増加については、市外の方に転入してきてもらうことも必要であるが、今現在の市民に転出されないことも必要であると認識しており、吉川市に愛着を持ってもらえるようなイベントを実施しているところである。</p>
<p>3 その他</p>	<p>————— 《そ の 他》 —————</p>
<p>事務局</p>	<p>次回開催について        次回会議は平成30年度の進捗管理シートが完成するその前後に日程を調整する。</p>
<p>石坂委員長</p>	<p>次回の開催について、平日の日中とすることでよいか。</p>
<p>菊地委員</p>	<p>それでよい。</p>
<p>小助川副委員長</p>	<p>平日で出席が難しい曜日もあるが、調整の際にお伝えする。</p>
<p>事務局</p>	<p>平成31年度については、第4次行財政改革大綱の計画期間が終了を迎えることから、次期計画を策定する必要がある。進捗管理とは別に大綱の策定に関連して委員会を開催させていただく。</p>
<p>4 閉 会</p>	<p>————— 《閉 会》 —————</p>
<p>石坂委員長</p>	<p>以上で本日の委員会の内容はすべて終了した。これをもって、平成30年度第1回行財政改革推進委員会を閉会する。</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p>	
<p>平成31年 3月29日</p>	
<p>署名委員 (石坂委員長 自署)      署名委員 (小助川副委員長 自署)</p>	